

奈弓連だより

通巻 224号

令和2年10月号
発行 奈良県弓道連盟
会長 西中 正
編集担当 松澤和実 山本悦子
連絡先: henshu@narakyudo.jp

令和2年度10月以降の審査・行事について

令和2年度のすべての中央審査及び連合審査は中止となっています。今後の審査会及び競技会については、全弓連の基本方針に基づき以下により実施します。

◆審査会

- ・10月25日(日) 第299回地連臨時審査
ならでん弓道場
審査種別: 級位、初段、弐段
対象: 一般会員・大学生
- ・12月6日(日) ならでん弓道場
午前 第3回ビデオ審査判定日
審査種別: 級位～弐段
対象: 中高生
午後 第293回地連臨時審査
審査種別: 級位～四段
対象: 一般会員・大学生
- ・3月14日(日) 第4、5回ビデオ審査判定日
第4回: 橿原公苑弓道場
第5回: ならでん弓道場
審査種別: 級位～弐段
対象: 中高生
- ・3月21日(日) 第296回地連定期審査
橿原公苑弓道場
審査種別: 級位～五段
対象: 一般会員・大学生

※但し、受審者数が著しく少ない場合(20名以下)は、中止する可能性があります。

◆競技会

- 11月3日(火) 県近的選手権大会
- 1月10日(日) 新年射初会
- 2月14日(日) 団体選手権

以上については内容を変更し、規模を縮小して開催予定。それぞれの実施要項を確認してください。

百射会は、今年度は中止します。

(総務部 藤岡順)

令和2年度第73回奈良県高校総合体育大会弓道競技

個人男子: 安田選手(高田商業)、女子: 落合選手(郡山)が1位

団体男子: 畝傍高校A、女子: 榛生昇陽高校Aが1位

上記大会が9月13日に東部はならでん弓道場、西部は橿原高校、21日はならでん弓道場において開催されました。

13日(予選)

各自4射 チーム3人立12射を引き、個人は男女とも3中以上通過、団体は女子5中、男子6中以上通過

21日(決勝)

個人は準決勝4射3中以上 決勝 射詰競技
団体は準決勝3人立、各自4射チーム12射を引き、上位8チームで決勝トーナメント

結果は次の通りです。

男子個人

- 1位 安田伊吹(高田商業)
- 2位 吉岡佑悟(橿原)
- 3位 西川宗吾(高田商業)

女子個人

- 落合珠梨(郡山)
- 沼田優美香(榛生昇陽)
- 廣田愛(高田商業)

男子団体

- 1位 畝傍A(横矢翔大 福西賢士 松室松英)
- 2位 橿原A(田中蒼翔 山本航大 吉岡佑悟)
- 3位 西の京E(森馬孝敬 勝田淳也 花谷周 森部晃生)
- 3位 高田商業B(山口圭太郎 渡邊 大生 安田伊吹)

女子団体

- 1位 榛生昇陽A(沼田優美香 宮本華蓮 吉田萌衣)
- 2位 郡山A(落合珠梨 植木花音 小谷花野子)
- 3位 郡山B(磯橋菜生 玖山陽菜 馬原美月)
- 3位 高田商業A(竹原見幸 大堂紗季 廣田愛)



左男子個人入賞者、右男子団体入賞チーム



左女子個人入賞者、右女子団体入賞チーム

団体は1位～3位が近畿大会へ出場 女子団体は前年度優勝校が郡山高校の為4位の桜井高校も出場となりました。
(高体連 澤 隆明)

第73回 近畿高等学校弓道大会 郡山高校が女子団体3位入賞

近畿高等学校弓道大会が9月27日大阪城弓道場において開催されました。今年度は団体戦のみ5人立で各自4射、合計20射でした。結果は次の通りです。

男子団体

- ・ 畝傍高校 (横矢翔大 福西賢士 田中琉樹
仲川颯真 松室松英) 8中 で予選敗退
- ・ 檀原高校 (田中蒼翔 森本大悟 山本航大
西村海都 吉岡佑悟) 9中 で予選敗退
- ・ 西ノ京高校 (坂口結哉 西田樹 森馬孝敬
勝田淳也 花谷周) 10中 で予選敗退

女子団体

- ・ 榛生昇陽 (沼田優美香 宮本華蓮 永見紗愛
金川由香里 吉田萌衣) 9中 で予選通過
決勝1回戦 (9中-甲南女子 13中) で敗退
- ・ 郡山高校 (落合珠梨 植木花音 玖山陽菜
磯橋菜生 馬原美月) 13中 で予選通過
決勝1回戦 (12中-浪速10中)
準決勝 (11中-甲南女子16中) で第3位
- ・ 高田商業高校 (竹原見幸 都築ひかり 柏木都
武村亜美 廣田愛) 13中 で予選通過
決勝1回戦 (8中-好文学園 10中) で敗退
- ・ 桜井高校 (森岡陽菜 北村優佳 中谷花音
松田倅歩 金澤ひろ乃) 7中 で予選敗退
(高体連 澤 隆明)

檀原市弓道交流大会

年代を超えて交流し、お互いに刺激を受ける機会に

例年10月に檀原市で開催されている市民体育大会が、今年度はコロナ禍により中止が決定されましたが、

生涯スポーツの発展・維持の観点より、各団体が働きかけ、『市民スポーツの集い』という名の代替会として開くことを認められました。そこで、檀原市弓道協会としては、『檀原市弓道交流大会』として、10月4日(日)に大会を開催しました。

■コロナ禍・公苑道場改修工事による制約

市民体育大会は従来、公苑道場とテニスコート遠的場を利用し、中学生・高校生・一般が参加し開催されてきましたが、今年度は公苑道場改修工事の為、当初は第二体育館に近的場を仮設し、実施する計画を立てました。しかし、時節柄、3密を避けることが必要となり、体育館での実施を断念し、最終的には遠的場のみで、遠・近両方の試合を実施することを決めました。近的については、競技規則からは外れる仕様(的が通常より高い位置)となりますが、遠的の矢止めに的を直接設置する方法としました。



遠的の矢止めを利用した近的的的

■中学生・高校生から一般までの交流

市民体育大会は、幅広い年齢層が一同に会する大会であることから、これまでは時間の都合上、中学生の部は午前遠的・午後近的、高校生と一般の部は午前近的・午後遠的という形で実施されて来ましたが、その為、お互いの射をじっくりと見る機会はありませんでしたが、今年度は両種目を同一会場で実施することで、全員がお互いの射を見る機会を得ました。中学生、高校生が楽しそうに伸び伸びと引いている姿が非常に印象的で、普段とは違う広い屋外近的射場という状況にも柔軟に対応し、的に狙いを絞り込む様子に私たち一般も刺激を受けました。また、中学生・高校生が真剣なまなざしで一般の射を見ている姿も印象的でした。

普段交流する機会があまりない中学生・高校生・一般が、準備から運営まで協力し合い、正に“交流”することが出来た大会となりました。この経験を元に今後は大会運営の効率だけでなく、交流という観点も考

慮しつつ、運営方法を検討していく必要があると思いました。



近的競技を行う参加者

■結果

中学男子の部

優勝：廣瀬 晴臣(白櫃)
2位：高橋 昊大(大成)
3位：花瀬 晟(檀原)

中学女子の部

坂本 優奈(檀原)
藪内 未来(檀原)
半田 美羽(檀原)

高校男子の部

優勝：田中 蒼翔(檀原)
2位：吉岡 佑悟(檀原)
3位：森本 大悟(檀原)

高校女子の部

中村 真望(檀原)
冷水 あさみ(青翔)
古岡 志帆(檀原)

一般男子の部

優勝：原田 祐介
2位：松本 信一
3位：奥田 章人

一般女子の部

榎田 容子
長濱 有美
東中 千佳

(檀原市弓道協会 原田祐介)

てる(的間160cm)程度の大きさです。

道場の名称はまだありません。「石打弓道場」でもないし、「西浦弓道場」でもなく、俗に「石打西浦弓道場」と呼ばれているようです。また、今年度から石打支部として単独支部になりましたが、現在の登録会員は2名という最小支部です。

昭和59年と言えば奈良国体のあった年ですが、吉本先生が岩手から奈良へ帰ってこられた年でもあります。翌年に道場が出来、秋から吉本先生と練習を一緒にすることになりました。布目の道場が出来るまでの7年あまり先生からいろんな事を学びました。布目の道場が出来てからも週2回の練習のうち1回は石打道場へ来ていただき、1回は私が布目の道場へお邪魔するという練習形態が、吉本先生が退職されるまで続きました。結局吉本先生から22年間ご指導を頂いたこととなります。その割には私自身は成長していません。指導を受ける者の心構えがダメだったと反省しきりです。

今は、毎週月曜日の午後6時から9時頃まで少ないときは5、6名、多いときは10名程前後の人達と練習をしています。但し、私は弓を引く事はありません。吉本先生から教えていただいたことを皆さんに伝える事に専念しています。私は吉本先生から受けた大きな恩を他の人達に伝える事が先生に対しての恩返しかなと思っています。ただ、最近私自身が弓を引かなくなってしまう、それだけでなくも下手な弓が益々下手になっていくのが気がかりです。ほぼ毎週火曜日に布目の道場へお邪魔をし、吉本先生と一手だけ一緒に引かせてもらいますが、週に一度、濃い2本を引かせてもらうのが唯一の楽しみです。大概是少しの満足も得られずに終わってしまいますが。

奈弓連の皆さんに道場へ来ていただきたいのは山々ですが、奈良県の一番外れにあるのでちょっと来てくださるとは言いにくいですね。檀原市からほぼ50km、奈良市からは40km弱なので、車で約1時間かかります。更に最近よく思うことですが、5年後、10年後にこの道場はどうなってしまうんだろうと心配しています。自然と朽ちていくんだろうとは思いますが、誰かがこの道場で練習を続けていってくれる人が出てくればいいのですが…。

まあ、もう少し頑張りましょう！

奈良県の支部、団体紹介

石打支部

石打西浦弓道場代表 西浦範光

奈良国体が終わった翌昭和60年に生まれ故郷の月ヶ瀬村(現在は奈良市月ヶ瀬石打)へ転居しました。家屋と一緒に弓道場も建てました。建築中はまだ天理市内に住んでいましたので、大まかな大きさだけを大工さんに伝えたきりだったため、道場と安土との距離が1m長く建てられていました。そのために安土の屋根を片屋根から前へ屋根を追加したので奥行きのある安土になってしまいました。結果的には砂を入れる量が多くなりましたが、ゆったりとした安土になり良かったと思います。道場の広さは3人が立

歳時記

「十一月」七・五・三

昔からの行事には、人間の発達からみても意義深いものが多くみられます。七・五・三は満年齢で勘定すると六・四・二になります。二歳は人生で最も身体的に急速に発達する時期で、生後一年間を過ぎてやや安定してくる頃です。四歳は知的にみて、著しい伸びをみせる時期に当たります。六歳では生活の基本的習慣が身につく、喜怒哀楽など成人の持つ情緒生がだいたい出そろって性格形成にとって大切な時期です。これを七・五・三とし祝い日としてけじめをつけたのは正しいことです。さらに最近十三参りの習慣が復活してきました。十三参りは満十二歳で虚空蔵菩薩（こくうぞうぼさつ）に参るのですが、この時期も青年期に入る大切な時期です。体が再び急速に発達して不安定になり、性的にも成熟して、自我意識も確立する精神的動揺期に当たります。青年期前期の初めで、非行への方向にたどるのも、この年令に多いことは注意しなければなりません。この時期に十三参りをして、虚空蔵菩薩に参らせたことも、やはり意味のある生活の知恵の一つでしょう。これら、成長の折々の行事に、民族衣装である着物で装うことによって、心の装いを持つことも精神的に大切な方向づけとも云えましょう。着物という

ものは、日本の風土に育ち、時代とともに精錬されてきたものですから、民族衣装としても一つの心が中心に確立されています。着物は、折り目正しくなどと言う言葉で象徴されているように、正しく畳むことによって着物の機能が活かされます。正しく畳むことが、正しく着ることの基本になります。そのほか、着物の礼装の知識も大切な国際常識になります。

袴は今日では、仙台平で代表される縞物が正式のように思われていますが、本来は地紋のある織物が正式でした。帯も同様で、博多帯などは略式になります。服装令によれば、男子の礼装としては、羽織、袴、白足袋と揃っていないと成りません。男子の羽織は、袴下肩衣からの転移です。近頃、女子の礼装に羽織をつけた姿を多く見受けますが、女子の羽織は元来、はんでんから変化して来たものですから、室内着や防寒着として用いられておりました。したがって、現在でも礼装には羽織を用いないのが常識です。よくこの本来の意味を理解するようにしたいものです。七・五・三などの行事は、表面的なものに流されて本来の意味を見失わないようにしたいものです。

「小笠原流マナー」著者小笠原清信グラフ社発行より
中埜大学藤原孝澄(中埜広樹)

(2008年10月号に掲載された記事より)

量る、測る、計る？



あなたの弓は重いですか？強いですか？
弓そのものを体重計に乗せたときにわかるのが「重さ」であり、引いたときの感覚、張力が「強さ」ですね。昔は弓の厚みで強さを表していました。厚み約1.8cm（六分）ならおよそ20kgというようにですが、竹の新旧によって違いがあったようです。現在では、弓の強さは、「kg」で表されますが、通常並寸弓では85cm、伸寸弓では90cmの長さを引いた時の張力が何kgであるかを示しています。店頭で表示されているkg数は、85cm、90cmを引いた時の強さなので、それよりも矢束が短い場合は、その表示よりも少ない張力で引いていることになります。矢束は5月号で測りましたね。同じ弓でも、引く人の矢束によって強さが違ってきます。「何kgの弓を矢束何cmで引いている」となり自分にとって「何kgの弓」といえるでしょう。弓の強さを決め

るのは、「同じ力の弓2張を一緒に素引きして肩入れができるとき、その1張は引くことができる」というのが目安。では並寸か伸寸かは？矢束によって決めないといけません。例えば矢束95cmの人が並弓を引いたら、弓に対して無理があり、効率が悪く、破損の原因となってしまいます。

編 | 集 | 後 | 記

郡山高校、近畿大会3位！おめでとうございます！
試合や射会が行われるようになり、皆さんの活躍を知ることがとても励みになります。さて、急に寒くなってきましたね。車のエンジンをかけてすぐに発進せず少し温めてから動かす。私の昔からの習慣です。今の車は性能がいいらしくそんな必要もないようです。道場に着いたら早く引きたい。でも高性能な体の持ち合わせはないので、弓も体もゆっくり時間をかけて温めてから引くことにしましょうか。(編集担当 松澤)